

令和5年度 第2回浜田市総合教育会議議事録

日時 : 令和5年7月10日(月) 11:25~12:23
場所 : 浜田市立第四中学校
構成員 : 久保田市長 砂川副市長
岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員
事務局 草刈教育部長 藤井教育総務課長 山口学校教育課長
鳥居学力向上推進室長
学校関係者(美川小学校) 川神校長 山根教諭

議事

- 1 市長あいさつ
- 2 教育行政に係る意見交換
ア ICT機器を活用した教育について
- 3 その他

1 市長あいさつ

草刈部長	定刻になりましたので、令和5年度第2回浜田市総合教育会議の意見交換会を開催する。
	開会にあたり、久保田市長より挨拶をお願いします。
久保田市長	令和5年度第2回総合教育会議を美川小学校で開催させていただくこと、川神校長先生、本当にありがとうございます。
	また、先ほど山根先生の素晴らしい授業を視察させていただき、ありがとうございました。大変、感銘を受けながら拝見させていただきました。
	ICT機器を活用した授業について、国も力を入れるということで、各小中学校の児童生徒に一人一台のパソコンを配備させていただいている。
	ただ実際に、どのような授業をやっているのか本日初めて見て勉強させていただいた。やはり子どもたちが非常に興味を持っていて、授業の最後に「ICTの授業は楽しいですか」と聞いてみたら、子どもたちみんなが手を挙げてくれて、非常に興味を持って授業を受けていると感じた。
	また、パソコンの使い方を勉強するのかなと思っていたらそうでもなく、パソコンを使いながら考えるという授業であった。考

草刈部長
川神校長

えるということ、また人の意見を聞いて多様な意見を知るということ、そして考えてまとめるということが重要であると私は感じた。それを上手に山根先生が指導されていることに感銘を受けながら拝見させていただいたところである。

本日は、この授業視察後の意見交換ということで、教育委員方からもご質問等あろうかと思う。よろしく願います。

続きまして、川神校長にご挨拶をいただきたいと思う。

本校校長の川神幸と申します。本日は久保田市長様をはじめ、多くの皆様に子どもたちの取組を見ていただく機会を賜り、誠にありがとうございました。

本校は令和4年度より、ICT機器を活用した授業改善研究校に指定していただいている。かねてより、私自身がICTの活用には大きな可能性を感じていたが、この春、美川小学校に赴任して参り、より一層児童生徒の思考力、判断力、表現力及び主体的で対話的な深い学びに、ICT機器が非常に大きな役割を果たしていると肌で感じている。

今からの意見交換で、ICTの課題やこれからのさらなる可能性をお聞きして、本校でもさらに活用して参りたいと思っている。

本日はどうぞよろしく願います。

草刈部長

1点、報告する。本日、傍聴者はおられないことを報告する。

この会は市長が招集して進行することになっているため、協議事項の進行については市長に願います。

2 教育行政に係る意見交換

久保田市長

承知した。議事進行ということで、最初に教育委員の方々から感想なり、あるいは川神校長先生、山根先生にも出席していただいているため、ご質問なり、ご発言をいただくかたちで進めさせていただければと思う。

では、教育委員方から順に願います。杉野本委員から願いたい。

杉野本委員

まず山根先生、本当に素敵な授業をありがとうございました。ワクワクしながら見に来たが、期待を超える素敵な子どもたちの姿で授業の様子を見させていただき、嬉しく思った。自分が思っている以上に授業がスピーディーに進むというか、特に総選挙の結果の集計であるとか、投票のところについても瞬時にできていた。あれがなかったら、黒板まで動いて行って、正の字を書い

たりしていたと思うが、そういった部分がなくなり、スピーディーで無駄な動きや時間がなくなった分、子どもたちにたっぷりと2人で話し合ったり説明したりだとか、意見交換する時間が取れ、子どもたちの発言の機会もたっぷり取れていいなと思った。話し合いの時間もたっぷり取れていて良かった。

電子黒板のタイマーが鳴っても、子どもたちがすぐに行きタイマーを止めているのを見て、これは子どもたち慣れているなという気がして、自然にそういうことができるぐらい、いろいろな場面で使っているのだろうと思った。

最後のところで2人で同じ画面を書き合いながら、こっちが書いても、こっちにも書き換わっていくのが見えるという、ソフトかアプリなのかを子どもたちも使い慣れている、本当に活用しているんだなというのが非常によく伝わってきた。

質問についてであるが、今回は国語の授業で見させていただいたが、他にどのような教科で活用するとうまく使えるとか、あるいはこういう場面で使うと自分としては使えているなどという手応えがあるということがあれば聞かせていただきたいと思う。

ありがとうございます。

教科で活用ということであるが、基本的にすべての教科で私は使っている。

今回は国語でパワーポイントというソフトの機能を使って、共同作業というかたちで行ったが、それ以外では、総合的な学習の時間、社会科で見学したことをパワーポイントにまとめてプレゼンテーションをするということを今学期は行っている。

また算数科では、デジタル教科書を購入させていただいており、デジタル教科書、要は教科書の電子版であるが、そういったものを使って子どもたちと図形を動かすようなことをしたり、直接書き込んで数直線とかは少し見にくいので拡大して活用したりということはしている。いっぱいあるが、主なところでいくとそういう感じである。

ありがとうございました。

次に、岡山委員。

本日は本当に楽しい授業を一緒に受けさせていただくつもりで見させていただいた。ありがとうございました。

先ほど杉野本委員も言われたが、投票機能を活用したことによ

山根教諭

杉野本委員
久保田市長
岡山委員

久保田市長
山根教諭

岡山委員
久保田市長

って、優れた見出しというのが子どもたちの中で投票することによってちゃんと可視化をされていることが、あのスピードでできていて、やはりすごいことだと思った。

それから新聞づくりをタブレットを使って作成されていたが、見出しを書き換えるにしても、紙に書くのとは違って、子どもたちが例えば考えながら消しながら、こうじゃない、ああじゃない、文字の大きさが違うというふうに言わずにできるということは、それだけ時間を短縮できているのかなと思った。

筆記に時間を取られることなく、その分の時間を思考に使えているのではないかなと思った。タブレットというか、あのシステムを使うことによってきっとそれができているのだろうと思ったので、きっと子どもたちがぐっと入り込んだ授業を考えることに使えているのかなと思った。

全体を通して、非常に子どもたちにとっても分かりやすい授業であり、ポイントがきちりと最後作り上げた見出しに投影されていたと思う。

その中で、分かりやすくなっていることの裏側に、先生の授業の準備がタブレットを使うことによって非常に負担になっているとなると、バランスをとるのが難しいのかなと思った。

その辺りはいかがか。

準備が大変ではないかということであるがどうか。

正直に言うと、今までのように紙媒体で準備をするよりは、非常に楽である。

やはり、あれを紙媒体でやろうと思うと、印刷して私が見て赤を入れてというキャッチボールを何ローテーションもしなければならぬ。結局、提出に関しても、1個を作ればコピーしていけばいいのでそういった面に関しては、負担はかなり減っている。

子どもたちと一緒に使えるというか、ある程度一緒に技能を高めるといえるのは、美川小学校が指定校でもあったため昨年から徐々に徐々にという感じではあったが、その部分はやはり少し大変だったかなというのはある。だが子どもたちに必要な力だと思っていたので、そこはあまり苦ではなく、準備自体は正直私の肌感では減っていると思っている。

ありがとうございました。

続いて倉本委員。

倉本委員

私は小学校の授業を見るのは、初めてかなという感じがするが、素晴らしいの一言であった。

市長が最初に言われたように、考えて自分の言葉で相手に伝えて、その言葉を聞いた人がちゃんと理解をしていく。それから一つの考えを自分で持っていく。素晴らしく、うまく流れていると感じた。これからは、「ICTを使いながら考える」というところが中心になっていくと感じた。

それから、クラスがすごく良いクラスという感じがして、何でも話し合えるとか、何でもできるクラスに感じた。

各学校を回ってみると、様々な課題があって、一つの方向に向けない児童もいるのではないかと思うが、その辺りのクラスの状況をお聞かせいただきたい。多分そういう問題がないからあれだけの授業ができるのかなと思う。それが学力に繋がっていくのかなという気がしている。

それからもう一つは、常に心配しておきたいのは、目で文字を追っていくため、自分で入力しながら文字を作っていく。そうすると実際に、その漢字を自分でペーパーに書きなさいと言った時に、それが書けるのかどうかというところである。

それから、自分の手を使って計算ができるというところの学力と、あのようなタブレットを使った授業とのバランスはどのようなだろうかという疑問が常にあるが、もし何かお感じになっている部分があれば、クラスの状況と書く力について、お聞かせ願いたい。

山根教諭

まずクラスの状況であるが、非常に落ち着いていろんなことに取り組めるような雰囲気になっていると思っている。子どもたちの頑張りや、クラスに優しい子がいっぱいいるので慮って発言したりとか、今日の姿を見てもらおうと分かると思うが、あれが普段の学級の休み時間でもあんな感じである。

あとは自分のことになるが、学級力アップ計画を総合的な学習や学活で、教室の入口のところにレーダーチャート、円グラフみたいなものを掲示して見える化をして、学級の状況を自分たちで考えて改善していく取組も実施している。それがすべてではないが、いろんなことを私も含めて子どもたちと一緒にやる中で、非常に落ち着いた状況でできているというのが現状である。

それから、ペーパーに漢字というところであるが、ICT指定校ということでICT推進はしているが、ペーパーを全く使っていない

倉本委員
久保田市長
花田委員

いということでは当然ない。

本校全校で書き取り会、全校テスト国語、計算会というのがあり、紙に書いて計算するという活動も十二分に時間を取って取り組んでいる。そこはバランスと軽重を取りながら、行っている状況である。

承知した。

次に花田委員。

本日はありがとうございました。

授業を見させていただいて、今日の時間を切り取って私達はあれしか見ていないが、今日の素敵な姿は日常の日々の積み重ねの今日であって、それをたまたま見せていただけただけなんだろうなと思った。作り上げた1時間ではなく、毎日の様子が伺えたのは嬉しかった。本当にありがとうございました。

お互いを思い合って、話を聞き合って、体の向きまで変えて、その人の話を聞くよという姿も素敵だなと感じた。

途中校長先生に、「このクラスの中には支援が必要な子はいないのか」とお聞きした。子どもたちみんなが話を聞けていて、こうしようと言ったらできているので、支援の必要な子はいないのかなと思ったが、校長先生は「います」とおっしゃられた。けれども、そこに参加できて不具合を起こさずに、苦しくなく参加できている意味合いでも、クラス全体の雰囲気ももちろんあると思うが、タブレットを使ったりすることによって、字をずっと書き続けたりとか、そういうことが難しい子にもそれが軽減されることとか、何か良い効果があったということがあれば教えていただきたい。

山根教諭

おっしゃった通り、支援を必要としている子はいる。ICTにして一番よかったと思うのは、先ほど言われたように、スピード感である。空白の時間がないため、何をしよう、どうしよう困る子が少なくなったというところである。

それから、やはり先ほど言われたが、紙の枠の中に字を書くということが苦手なお子さんがおられる。そういったところで、すぐに打ち込めて、すぐに消せて、しかも枠の中にちゃんと綺麗に入る。そのため、こだわりが強かったりすると書いて消して、書いて消してということもあったりするが、そういった面では、非常に助けになるという言葉は違うかもしれないが、一つの支援になっているのかなと感じている。

花田委員
久保田市長

ありがとうございました。

それに関連して支援が必要な子がおられると思うが、ICTを使う前と比べて、ICTだと何か入りやすいというか、家庭でゲームをやったりする子もいると思う。そういう子どもたちも比較的授業に参加して、ついてきてくれるというようなことはいかがか。

山根教諭

正直に言うと、タブレットというだけで最初は非常に食いつきがいい。

こんなことを言っただけではあれだが、準備をしたが、しまったと思うことがあっても、紙だとちょっとわちゃわちゃしたりすることもあったが、タブレットだと「タブレットやります！」みたいな、「やっていいですか？」という感じで、食いつきの面でやはり全然違う。ざっくりで申し訳ない。

川神校長

それから、今までの学校教育の中では、教師が話しているのを「聞いて書く」というのが主だったと思うが、最近の子どもたちはやはり見る力の方が強くなってきているため、話を聞く集中力が見ることによってより集まる。時代に合っている部分もあるのかなと感じている。

久保田市長
砂川副市長

承知した。次に副市長、何か感想を。

今日はありがとうございました。

私が想像していた以上に活発に児童が発言をされていて、先生とキャッチボールをされていてすごいなと思った。

それから、1人で発言するだけではなく、2人とかグループを作って行っていた。常日頃からそういうことをやっておられることで、やはり自分ができないことを2人でやると少しその辺がお互いサポートし合えるのかなと思った。

それから、先生の目配りや気配りが素晴らしいと感じた。

教えていただきたいことであるが、まず山根先生が今のクラスを担任されて何年目かということと、ICTのいろいろな良い面の話がたくさんあったが、ICTを取り入れたことによって逆に課題になっているようなことがあれば教えていただきたいと思う。

久保田市長
山根教諭

先生、お願いします。

はい。今年度からこの学級を担任させていただいているので、まだ3か月ちょっとである。

困ったところで言えば、本日の授業はネット環境に繋がっている条件ありきの授業である。かなり整備をさせていただいているところであるが、やはり脆弱なところがあって、ネットワークに繋

がらないと正直その授業が破綻してしまうというところがあり、やはりそこが授業者としてはかなりストレスであるし、子どもたちも繋がらなかった時は、がっかり感にも繋がっているため、ネットワークの脆弱なところは、他の学校のネットワーク環境がどうか分からないが、美川としては少し感じるところがある。

また、やはりタブレットは故障が起きることがある。今日はICT支援員さんがついてくださって、すぐに対応してもらえたが、なかなかそのタイムラグがあるため、タブレットがネットに繋がらない、壊れたとなれば、修理に出して2日後に返ってくるとなると、授業はその日も活用があったりするため、そういったハード面的なところも個人的には少し気になるところである。

砂川副市長
山根教諭

故障は度々あるのか。

度々ではないが、やはり定期的に更新が上手くいかなかったりとか、いろんな原因があるのかなと感じている。

久保田市長
川神校長
久保田市長
川神校長
山口課長

その場合、応急措置的に予備のパソコンがあるのか。

ICT支援員さんが持ってきてくれる。

各学校に何台か予備のパソコンはないのか。

据え置きではない。

限られた財源で購入し、一括で管理しているため、必要な場合は前もってご連絡をいただき、支援員が学校に行って設定等を行い、使えるように対応しているところである。

久保田市長

前もって分かればいいが、授業中に故障してしまったら、他のものにすぐに繋げることはできないのか。

山根教諭

現状ではできないため、友達と一緒にやってもらったり、私は結構パソコンが好きなのでその場でちょっと直したりするが、教員全員がそうではないため、ちょっと待ってねというかたちになると思う。

砂川副市長

今日はICT支援員さんがおられたが、常におられるのか。

先ほど、タブレットはほとんどの授業で使っているというお話だったが、その時に支援員さんがおられずに先生お1人でされることもあるのか。支援員さんがおられたらそのサポートができると思うが、その辺りはいかがか。

山根教諭

支援員さんについては、浜田市に4名か5名ぐらいおられ、小中学校が全部で25校あるため、来られる日と来られない日がある。

そのため、授業で活用している時に支援員さんがおられない時

が本校でもある。支援員さんがおられる日は、学級に分配して来ていただいている。

久保田市長 支援員さんについてだが、教員か。それともパソコンに詳しいお仕事の方か。

山口課長 本日おられた2名の支援員のうち1名は委託しているGIGAスクールサポーターという方で、外部の民間の方であるが、この方は有資格者である。

久保田市長 有資格とは、何の資格であるか。

山口課長 こういったGIGAスクール構想に見合う部分で、民間資格である。

久保田市長 要するに、学校の先生、教員免許を取得している方ではないということか。

山口課長 そうである。あくまでも授業のサポートを行う方である。

久保田市長 コンピュータ関係の会社の方などか。

山口課長 1名はそうであるが、ほかの方はパソコンに詳しい方である。本当に詳しい方はその道で職業に就かれているため、なかなか人材確保が大変である。

久保田市長 承知した。それでは教育長に感想をお聞きする。

岡田教育長 今まで情報機器の整備をしてきて、教科指導などに使われてきたことが、今はタブレットをコミュニケーションツールとして使おうということで、私はそこに注目して見させてもらった。

Teamsであるとか、パワーポイントであるとか、そういうことを子どもたちがもう日頃からやっているということがいかにもわかる感じであった。さくさくと使いこなしていた。

昨年の今の段階では、ちょっとどう操作するのという様子を感じた学校もあったが、日常からよく使っておられて、抵抗感なく子どもたちが使っていることが分かって、とても良かったと思っている。

そして時間が十分できるため、話し合い活動もふんだんに取り入れられていて、やろうと言うとすぐに子どもたちがグループになって向き合える姿もまた素晴らしいなと感じた。

それから、「学習のめあて」であるが、大体授業の初めに先生が書かれて、さあやろうよとなると思うが、今日の授業の中では授業の途中で子どもたちに決めさせるというか、見つけてもらうような仕掛けをしておられた。そんないろいろな授業の中の有り様というのが、多分タブレットを含めていろんな機器があること

で今まで以上にやりやすくなったのではないかと思っている。

そういう意味でも少し刺激的な授業であったと私自身は感じている。

それから質問として、美川小学校は ICT の研究指定を受けてもらっているが、他の教員の皆さん方の、美川小学校の中でのいろいろな活用状況を教えてもらいたい。

川神校長

私は今年度から美川小学校に赴任してきたが、私と同年代、もしくは年上の方も非常に使いこなしておられることにはびっくりした。

以前勤めていた学校でも ICT が入ってきた段階で、若い先生が年配の先生に教えるという、良い意味の逆の OJT があり、それが行われている学校は、先生方同士が職員室で「こういうふうな使い方を教えて」というような感じがあったが、おそらく今までの美川小学校もそんな感じだったのではないかと思った。

非常に上手に自分で作成をされていたり、低学年はデジタル教科書がないが、ご自分で子どもの実態を捉えて作っておられたりという実態があった。

岡田教育長

ありがとうございます。

学校の中で、特に操作に長けておられる若い先生方を中心に使い方が広がっていくと良いと思っている。これが学校を超えた時に、それぞれの学校で事情が違う。教育委員会もなるべくそういうギャップを縮めようということで、事例を用意したりしているが、学校現場として教育委員会にこの ICT の授業の広がりのことに対して、何か要望や提案等があれば教えていただきたいと思う。

川神校長

予算的なことを言ってもよろしいか。

岡田教育長

はい。

川神校長

私は美川小学校の前は雲城小学校で勤めていたが、雲城小学校もありがたいことに各学級に電子黒板があった。

一つだけないのが、支援学級になかった。やはり支援学級のような学級こそ非常に必要で、通常の学級でも特別支援学級でも、もうこれからの時代になくはならない教育現場の必須アイテムであると思う。是非、何とかしていただきたいと思っているため、市長さんよろしく願いいたします。

久保田市長

はい。必要なものは整備すべきだと思う。

岡田教育長

ソフト面でも何かあれば教えていただければと思う。

川神校長	ソフト面で言えば、やはり山根教諭のような長けたものが居ると非常に学校が変わってくる。やはり、先取りでこういう使い方を聞いてきた、こういう使い方ができる等、学校内に広めるメンター的な人がいるとその学校は非常に助かると思う。年配の先生方も活用したいが、なかなかその使い方を教えてもらうのが厄介という時に、やはり聞きやすい存在がいることで非常に助かるため、メンターの育成をよろしくお願いしたい。
岡田教育長 久保田市長	はい。ありがとうございました。 ひと通り意見交換を行ったが、後でまだご意見や質問等あればお受けしたいと思う。
山根教諭	実は私が今日一番感心したのは、発言する際に立って椅子を戻して発言していたことに、今日一番感激した。あの姿勢は校長先生のご指導なのか、伝統的に美川小学校がそうしているのか。
久保田市長	そうですね。伝統だと思う。先ほどもお話ししたが、私は4年生から担任させてもらっているが、その時からである。私は普段から見てきているため当たり前で、そこにピントというか、目線がいていなかった。そこは確かに、1年生の頃からの積み重ねができていると思う。
杉野本委員	いわゆる社会性や礼儀の観点からも、まずあの場面を目にして実は正直一番の驚きであった。 杉野本委員、他の学校でも皆そうなのか。 学校によっていろいろである。座ったままで発言するルールがある学校もある。
久保田市長	今日はグループでの発表でも、グループの中で代表者1人だけが立つのではなく、今日はグループ全員で立って発表している姿を見たが、美川小学校の仲間意識などいろんな意味があるのかなと思った。
倉本委員	初歩的であるが、その辺は教育委員会が音頭を取って広めてもらえたらいいなと思う。 やはり将来、子どもたちが中学校、高校に進学して社会に出た時に、この辺りは重要であると思う。 高校ではそんなことはやらないか。 いいえ。やる子もいる。 先ほど少しお話ししたが、プリントが配られる際に先頭の子が「ありがとうございます」と言った。高校でも言う子がいた。最初はこういう時代なのかと思ったが、今は結構「ありがとうございます

久保田市長

います」と言って、プリントを受け取る子が結構なクラスにいる。素晴らしいことだと思う。こっちが恥ずかしいような気がするが、そういう言葉遣いが、非常に変わってきていると感じている。

島根大学の医学部に地域枠があって、私は推薦委員の委員長をやっているので学生と面接をする。その後にセンター試験の成績が良くないと結果的には受からないが、面接の時にこちらから質問をすると、「はい」と質問者に体を向ける子がいるが、振り返ってみればそういう子は皆受かっている。学校で指導されているのかわからないが、社会性とか礼儀とかは基本であるが、やはりしっかりできている子はしっかりしていると思った。本当に感心した。

それからもう一つ、先ほどメンターの育成の話があったが、これは校長先生というよりもむしろ教育委員会でその辺りは是非考えていただきたい。やはり教える人を育てるということ、ここが一番重要であると山根先生の素晴らしい授業を見ながら思った。

やはり ICT 授業を、他の先生方にもモデル校に来ていただいて見ていただくことが必要であると思った。

私も大学の教員だったが、大学で今 1 番力を入れていることが「FD」と言って、Faculty Development の略である。つまり教員の指導力ということで、島根県立大学でも私が以前いた法政大学でも学生に対して、先生の授業がわかりやすかったかどうかという質問が必ずあって、それで先生の評価をされている。

つまり、教える方もいろいろ開発して授業改善していかなければ、それが学生に伝わらない。そういうことを考えると ICT の場合は、ICT という機器の使い方もあるが、実はもっと重要なのは、教える側の仮説構築力であったり、対応力であると思う。

ICT 機器とは手段であって、今こんな流れになっているからもっと別の意見を出させようとか、おそらく先生の頭の中で構成されて、こっちの方に持っていきたいからその場を読みながら誘導する力とか、こういうこともあるよねと気づきを与える力とか、そういう先生の能力についても非常に重要になってくるのかなと思った。

教育長、その辺りの先生方への指導、育成をよろしく願います。

岡田教育長

今、学力向上推進室でも、研究授業を皆で見合うということ

やっている。その学校だけに関わらず、他の学校にも出かけて行き、先生方が良い授業に触れて、それを自分の授業の中に取り込んでいくことが非常に大事であると思っている。

ただ、ここ数年コロナの関係もあってなかなかそういうことが難しい時期もあった。それから学校が本当に今忙しく、一つのクラスの授業の中に先生が複数名で入っていたりすると、なかなか研修の時間等が取れない。今日はくしくも負担感が減っていると言われたが、特に小学校の場合は国語の授業だけではなくて、いろんな教科の準備をしなければならない。中学校は部活動があるから中学校は大変かという、小学校も実は大変である。そのため、教育委員会としてはしっかり取り組んでいって、やはり授業力を上げるための研修であったり、学びであったり、そういった時間をしっかり確保していかなければならないと思っている。

鳥居室長とも相談をさせていただきながら、その辺りをしっかりと取り組んでいきたいと思う。

久保田市長

そうしていただければと思う。

山根先生、いかがか。

山根教諭

勉強していきたいとは思っているが、やはり負担感が減った部分と、言われたとおり、多忙感もあるかなと思うところもある。

私が今日授業者として授業をしながら、いろんな先生方の授業を見たいなという気持ちはあるため、是非またそういう機会に見に行きたいなと思う。

久保田市長

委員方の中で、聞きたいこと、言い忘れたこと等あればお願いします。

岡山委員

本日の授業の中でグループで立ち上がった子がちょっと言葉に詰まってしまってどうしようかなというときに、先生が何かフォローを入れられるのかなと思ったら、子どもたちが逆に決まっていなくても一人の子に、と言えた姿というのは、多分その子のことが普段から分かっているから何とか傷つけないように言えたのかなと思った。

子どもたちの関係性が素晴らしいのと、先生が多分ぐっところえて、どういう展開になるのかを待たれていた姿が、この学級集団を表していると思った。

久保田市長

私もあの場面には感銘を受けた。

先生がどう対応されるのかなと思った。

山根教諭

私はあそこはちょっと待とうかなと正直思っていた。普段の様

- 子から、お互いを本当に慮って、こうするといいよとか、じゃあこうしようって言葉が多分出るだろうなと思って、ずっと待っていた。出なければ私が声をかけようかなと思っていたが、本当に子どもたちが良い集団で、本当に何と言っていいか、本当に良いとしか言いようがない。そんな感じである。
- 花田委員 後ろから見ていたら、それこそ本当に相手意識が非常に高く、集結している姿かなと思った。後ろから見ていて、同じ班の2人が同時に立ち上がって、どっちが言うのか決まっているのかなと思った。あれはどうやって決まっているのか、リーダーを決めているのかと思ったが、班長みたいな感じで決まっているのか。
- 山根教諭 全く決まっていない。子どもたちが自由に相談して、子どもたちで決めている。
- 花田委員 後ろの子がすっと立って、どっちが言うっていうのを、こっちの子が隣の子に、手でどうぞと示して譲っていたのが素敵だと思って嬉しくなった。
- 山根教諭 ありがとうございます。
- 倉本委員 子どもたちにも伝えたいと思う。ありがとうございます。
- 倉本委員 1つ質問であるが、タブレットを使い始める学年は何年生から使用するのか。
- 山根教諭 小学1年生から使用している。
- 倉本委員 タイピングはいつごろからか。やはり1年生のころからやるのか。
- 山根教諭 一応、系統表というのがあり、この学年でこういうことを身に付けられるように行っている。最初は写真やタッチペンを使ってお絵かきであったり、早い子は入力したりしている。小学3、4年生はローマ字も習って既に打ち込める。
- 岡田教育長 1年生については、やはり打ち込みというより、タッチペンで直書きを行っている。
- 岡田教育長 子どもたちはやはり慣れて使うことが早い。最初は先生方から使い方等をいろいろ指導されているが、いつの間にか逆転してしまっている。負けないように先生方も身に付けていかなければ大変かなと思う。
- 久保田市長 その他はいかがか。
- 杉野本委員 どうしてもICTが活発化していくには、やはり堪能な方が育っていないとてはならないということで、去年は教員によってどんど

ん使う方と使わない方がいて、そういう人材が多いか少ないかによって、ICTの活用がどんどん進んでいくところとなかなか進みづらいところが出てきて、どうしても差がある。

特に興味があって関心のある若い先生方が実践しておられる気がしているが、先生方同士の関わりもあると思う。一つは指定校というかたちでみんなで向かう方向が揃っていくということもあるだろうが、普通の学校になってくると、こっちの研究がある、こっちの仕事もある、という中で、ICTの活用を広げていくためにはどうやって広げていくのが難しいところだと思う。

一つは、こんなのやってみたよとか気楽に話せるような雰囲気
の職員室の中で、私もワープロを始めてみた頃には、ちょこちょこ人に教えてもらったところから始まった気がしている。そういった雰囲気を作っていくことは、ICTの活用を広げていく上でも大事であると思う。その辺りの声かけで気軽に聞けたり、尋ねたり、答えたりすることができるという雰囲気づくりも非常に大事になってくると思う。職員室経営という辺りで、教頭先生の力も大きく関わってくると思う。

メンターの人間性というところで、最近若い人からのパソコンができない人に対するハラスメントが出てくることもある時代の中で、その辺りもメンターの動きが上手になれば、年配の先生方がやる気になっていくと思う。そういった部分も大事なところではないかなと感じている。

川神校長

教員にタブレットが配布された時点で、とにかくやろうっていう雰囲気はおそらくどこの学校でもあったと思うが、やってみると子どもたちの反応がすごくいい。やらないわけにはいかないという感じになったら、年配としてはやはり聞きたい。

私もつい先日、理科の授業の中でやりたいことがあって、若い先生に聞いたことがあったが、これはこうですよと教えてもらって、メモを取りながら恐る恐るやってみたら、子どもたちの反応がすごくいい。これはいい、また聞きたいっていう良いサイクルができると活性化していくのではないかなと思った。まずはやってみて、その良さを知るところからではないかと思う。

久保田市長

私が市長になった今から9年、10年ぐらい前の話であるが、校長会に呼ばれて講演会を頼まれた時に、私は国語教育が一番重要だという話をした。英語も数学も算数も重要だが、一番重要なのは国語教育であるというテーマで、当時の校長会で講演をさせ

ていただいた。

ICTといわゆる国語教育という観点からちょっと心配は未だにあって、やはり国語教育の基本っていうのは、しっかり書いてある文章を読んで理解をして、相手の気持ちになったり、またそれを書くことによって表現する。その力が国語教育とICTというところで、うまくICTを活用していけるのか。あるいは、読んだり書いたりするのは、また別の国語教育をしておられるのか。その辺はいかがか。

山根教諭

私自身であるが、軽重をつけて分けて行っている。本日の授業はICTを使った方が良いと判断したため、こういうかたちにした。

教室に入って来られたところの廊下側に、校長先生の話聞いてというのがあがるが、全校朝礼で校長が話をしたことに対して自分がどう思ったのかを紙に書いて作文するような活動も私の学級では行っている。

ICTがあるからICTだけを使うという考えではなく、ICTは道具だと私は思っているため、状況によって使い分けている。

ただ、この単元、学習ではもう全く使わないというのも正直ある。そのため、書くことも私自身は大事にしている。

久保田市長

首長としてはICTを推進する立場にあるが、やはり一番大きな懸念がそこにある。便利な機械なだけに、ついつい考える力や書く力等々が疎かになることを心配しているため、その辺りはよろしくお願ひしたい。

その他はいかがか。

砂川副市長

本日の授業でICTを非常に上手に使って子どもの能力も発揮しておられたが、このICTを使ってもう少しこういうふうにしていきたいというような先生方の目標みたいなものがあれば教えていただきたい。

今のやり方を踏襲してやっていけばいいのか、もう少しこういうことにも入れていきたいとか、まだICTが導入されて数年であるが、どのように考えておられるか。

山根教諭

踏襲することも一つ大事かなと思っているが、やはり子どもたちがいろんなものを知っていて、いろんな場面で選択して使えるような力を最終的には身に付けてほしいと思っている。具体的にどんなものがと実際にぱっとお伝えできないが、最終的な目標としては、いろいろな活動の中で、この活動ではこういうことを使

砂川副市長

っていこうとか、大人もプレゼンするにはパワーポイントを使っていこうとかいうかたちで、いろんなことを試行しながら使えるようなかたちになるといいなと思っている。

タブレットは、子どもたちは家に持って帰って、家でも勉強で使えるようなかたちにしているのか。それとも学校だけで使っているのか。

川神校長

一応、持ち帰りはしている。

砂川副市長

例えば、先生が事前に宿題を入れておられて、タブレットを持ち帰って宿題に取り組むといったこともあるのか。

山根教諭

はい。あります。

鳥居室長

先ほどの副市長が言われたことの補足であるが、本日の前半の場面が協働的な学びというところだと思う。タブレットを介しながら、それを基に話し合いがどんどん進んでいく使い方である。これが旧来型の使い方だろうと思っている。

後半の場面が、若干個別最適な学びのところへの入り口だろうと思っている。画面が共有できていて、人を見ながらいいところを取り入れられるというような良さもある。

私が山根先生にお願いしていることがあるが、ちょっと一歩進んでコース別が何とかならないかというところである。学習課題に対して、上り口が幾つかあるはずだが、それを子どもたちが選択をして、僕はAの上り口から、私はBの上り口からというのをやりながら、それがお互いの画面で見えていて、そこで子ども同士が聞きに行きながら交流を深めて、学びを深めていくことが指定校として何とかありませんかということはお話をさせていただいている。それが少し新しい方向性かなという気がしている。

久保田市長

ちょっと視点が違う話になるが、自宅でのメディア接触について浜田市でアンケートを実施したら、結構ゲームであったりメディア接触が多い状況である。ICT化をやっていると逆にそれを助長するのではないかという心配もあるが、その辺り、自宅であまり使わないようにとか言われているのか。

タブレットを使って勉強することを控えるようにということではないのだが、ゲーム等に結構時間を取られている気がする。その辺り何かご指導はされているか。

川神校長

その辺りはどこの学校も本当に苦労している。学校でどうにかできることではなくて、やはり家庭に依頼することが多い。

それこそ今の取組としては、メディアコントロールするために

時間を決めたりとか、読書を勧めてみたりしているところである。もうすぐ夏休みが始まるが、我々の心配事としては、ずっと家で冷房の効いた中でゲームをやっている子がいるだろうなどは思っている。大きな課題である。

久保田市長
鳥居室長

鳥居室長、いかがか。

以前もお話をしたような気がするが、これは家庭の問題であって、学校のやるべきところまではちゃんと指導を行う。

もう一つシフトを変えているのは、メディアよりも家庭学習の方に目を向けましょうということで、昨年度から徐々に家庭学習の方向へ進めている。

自分で家庭学習の時間を決めたり、開始時間のことも含めてであるが、内容を決めたりとか、そういう指導も学校で行う。そして、提出されたものをチェックする際もコメントを入れたりということも学校でちゃんと指導をしている。その辺りがうまく回っていくようにしながら、メディアの部分にも良い影響は出ないか、今やっている途中である。少し家庭学習を中心にしながら、メディアを変えていこうという感じで出させていただいている。

久保田市長

都会の子どもたちと比べると、都会には中高一貫校があったり、中学受験があったり、ゲームをする暇がないという話も結構あるが、浜田の場合はその辺り、のびのびと子どもたちがゲーム等をしているため、いかに控えるかということも家庭の問題かもしれないが、大きな課題であると思っている。

鳥居室長もいろいろご苦労されて、いろんな方法を考えてやっていただいている。

鳥居室長

ちなみに全国学力学習状況調査の質問項目から、メディアが今年度から消えている。

文部科学省が、やはりこれは家庭がやるべき問題だろうという思いで、シフトを切ったのだと思う。学校がそこをいろいろ分析する問題ではないということで、全体的にはやはり学習時間であったり、そっちの方へのシフトかなという気がしている。

久保田市長

教育委員会の問題ではなくて家庭学習となれば、どこが取り組んでいくべきか。

杉野本委員
岡田教育長

教育委員会がやはり家庭教育も関わってくるかもしれない。

今、校長会でお話しているのは、子どもたちに自主的にルールを決めさせる。その方が先生方が決めてこうしましょうというより、まだ自分たちで決めたことなので何とかしようという気持ち

久保田市長

に通じるのではないかというお話をさせていただいている。

なかなか学校の中でコントロールすることは至難の業である。

都会と地方の格差とよく言われるが、勉強時間とか、教育の差もだんだん広がるような感じがしている。決して勉強ばかりやる方がいいとは言わないが、だんだんその差が広がるような気がしているので、子どもたちにいかに家庭学習の時間を確保するかであると思う。

これがだんだん、ゆくゆくは上の学校に進む差にも繋がってくるのかなと思うと心配である。

教育委員会だけの問題ではないが、よろしくお願ひしたい。

岡田教育長

承知した。私から一つ、子どもたちがコミュニケーションツールとしてどんどん使い始めていった時に、今、小学校でも SNS 等を使うと思うが、その関係のトラブルが非常に増えている。

いろいろやりとりできて、自分が誰か分からないから投稿もできるし、そのことによって傷つく人がいたり、それがいろんなトラブルに繋がっているということ、小学校でも使い始めて慣れ始めたころには、きちんと伝えていただきたいと思っている。この部分は授業とは別であるが、よろしくお願ひしたいと思う。

それから情報機器はどんどん進化していく。今、文部科学省で問題となっているのが、「ChatGPT」のような生成 AI である。

子どもたちが長けてくると、読書感想文は「ChatGPT」を使ってみるということに正直なりかねない。これは教育委員会としてどうするのかということで、文部科学省はこういうことはふさわしくないという事例を挙げているが、では何に使えばいいのか、もっと分かりやすくしてほしいという気持ちもある。この件とは違っても、その辺り気づいたことがあれば教えていただければ嬉しく思う。

久保田市長

今言われた読書感想文についてだが、手で書くことにすれば、少しは歯止めになるかもしれない。

岡田教育長
川神校長

調べて手で書く子もいるかもしれないが。

「ChatGPT」であるが、実際に学校でそれが全部正解ではないというような、嘘の情報もあるよという授業を取り上げたりすると、子どもの中に便利なものでも全部信じちゃいけないものがたくさんあるということ、そこはやはり学校が伝えていく大きな役目かなと思う。段階的に取り入れているが、これからもっと力を入れていかなければならない分野であると思っている。頑張り

ます。

久保田市長 子どもたちはみんなスマートフォンを持っているか。
川神校長 持っている。
久保田市長 むしろ先ほど教育長が心配されていた、そのスマートフォンでのトラブルが心配であるが、何か対策をされているか。

山根教諭 スマートフォンを持つ持たないは、やはりご家庭のお考えであるが、学校としては情報リテラシーになるため、こういうことを送ったら誤解を招くよとか、道徳ではないがリテラシー的な授業は学年に応じて行っている。そういったところで、自分で考えて使えるようにというようなかたちにはしている。

鳥居室長 今、途中でお配りした一覧表の中に、一番上の左から2番目のところに枠がいくつかあるが、上から3番目のところに情報モラル・情報セキュリティなどについての理解とあるが、情報モラルとか情報セキュリティの理解の中で、低学年では人の写真は勝手に使わないとかあって、一つ上のところを見るとインターネットには良くない情報もあるため、大人と一緒に使うことを知っている。

中学年では同じところや違うところを比べてみると、多くの情報を整理することができることを知っているのかなというように、学校でも段階的にいろんなところを指導していただけるようなカリキュラムを組んでいただいております、実際に指導をしていただいている。

久保田市長 承知した。ありがとうございました。
委員方 その他はよろしいか。
久保田市長 はい。
久保田市長 本日は川神校長先生、それから山根先生、皆さん方には大変お世話になった。いろいろな課題、宿題も出てきたが、しっかり対応していきたいと思う。
今後ともどうぞよろしく願います。
それでは、本日の総合教育会議を終了させていただく。

終了 12 : 23